

令和5年度第1回認知症施策検討委員会次第

日時 令和5年 7月21日(金)

13:30~15:00

場所 高梁市役所3階大会議室

1. 開 会

あいさつ(河本委員長)

認知症支援について本人の声をきいて活かしていくということが本年度は強く打ち出されている。認知症カフェやデイケアで当事者と関わっているが中々本人の声がきけていない。認知症をイメージした時に中等度、重度の人や行動・心理症状が頭に浮かぶため、認知症と言われるたら嫌だと思ってしまうことも一因ではないかと思う。認知症への理解が進み、認知症になっても困らないまちになっていけばと考えている。

自己紹介

崎山委員：後見人活動をしており認知症の人と関わることも多いため、委員会で勉強をしながら自分の意見を言うことができればと思う。

松崎委員：3月津山警察署から着任した。警察でも認知症の取扱いが増加している。警察としてはどんな病気になっても天寿を全う出来るよう、安全・安心な生活が送れるように力になればと思う。

2. 協議事項

1) 認知症基本法について(別紙)

2) 令和5年度認知症総合支援事業について(別紙)

3) 認知症月間の啓発活動について(別紙)

【グループワーク】

①街頭啓発等でのグッズ内容について(1つ100円程度のもの)

- ・もらって嬉しいもの、可愛いものが良い
- ・子どもが喜ぶもの、介護している年代が喜ぶもの
- ・ロバ隊長のマスコット
- ・ステッカー、シール
- ・ポロシャツと同じ「認知症とともに TAKAHASHI」のロゴを入れる
- ・エコバッグ
- ・グッズの配布方法を街頭啓発の時とイベント参加者に渡すもので内容を代える等の工夫を行う
- ・マリーゴールドの花にピックを刺して渡す
- ・マリーゴールドの種
- ・ミニタオル

- ・文房具（ペン、メモ帳、クリアファイル）
- ・ロバ隊長が書いてあるメモ帳（めくる度に標語やチェックシートが書いてある）
- ・うちわ等日用品として使えるもの

②市民ホールでのイベント内容について

- ・入口を入れて分かりやすい
- ・テレビで過去に作成した行政放送を放映する、「ぼけますからよろしく願いします」を放映する。
- ・掲示と人が立っているだけでは会場に入ってきてもらえない。かといって入口に人が立っていると入りにくい。サクッと入れるような工夫が必要。
- ・一人だけでは入りにくい、入りやすい工夫。
- ・音楽を流してにぎやかにする
- ・脳トレ、認知症予防の体操等遊び感覚で体験できるようなコーナーを設ける
- ・自分に関係ないと思っている人が他人事ではないと思ってもらえるような啓発を行う
- ・来年度以降、小中学校に認知症についての絵を描いてもらう、塗り絵をしてもらう等協力をお願いする

③その他（認知症月間の取り組み等について）

- ・権利擁護センター主催の成年後見セミナーで備北信用金庫職員の講話があった。認知症サポーター養成講座を受講した職員が包括へ相談し、最終的に成年後見人制度の利用に至ったという話を聞いた。
- ・消防署、消防団等身近な人に認知症サポーター養成講座を受講してもらう
- ・行政放送について、新しい話題のものを作るのが良いか、重要なことを繰り返し伝えていく方が良いのか。
- ・行政放送を一つのテーマに絞って、認知症の症状・行動等認知症の進行の順を追って作っていくことも大切ではないか

4) 本人支援について（別紙）

本人の何気ないひとことシートの協力依頼

3. その他

- ・家族介護者交流事業について
- ・ボランティア養成講座について
- ・第2回認知症施策検討委員会
日時：令和5年11月27日（月）13：30～15：30
- ・第3回認知症施策検討委員会
日時：令和6年2月15日（木）13：30～15：30

4. 閉 会（妹尾副委員長）

認知症月間に向けて、本日出た意見からどうなっていくのかと思っている。また、去年の反省を活かして認知症の普及啓発が進んでいけば、高梁という地域が住みやすくなることに期待している。

本人の声はふとした時に出ていることがあり、聞き流してしまうこともある。何気ない一言に重みがあるが、キャッチしきれていない。そういった声をしっかりときいて支援につなげていくことができればと思う。